第１回社会教育委員会議議事録

日時　　平成28年11月４日（金）14時～15時30分

会場　　大阪府庁新別館北館　会議室兼防災活動スペース１

出席者　藤本委員、藤田委員、村田委員、安達委員、尾﨑委員、藤井委員、土居委員、南委員、後藤委員、岩崎委員

萩原委員、竹下委員、面屋委員

議事１　子どもの読書活動状況に関する指標について

議事２　「第３次大阪府子ども読書活動推進計画」に関する平成28年度の取組み状況

議事３　平成29年度の取組み方針について

意見要旨

【平成２８年度の取組み状況】

＜読み聞かせの推進＞

○　読書離れは世界的な課題、オーストラリアのアデレートの支援センターは、ビニールバックに、絵本と絵本にでてくるぬいぐるみのセット、どんなふうに読むかのマニュアルがあり、登場人物、誰がどんな気持ちか、読んであげればよいか具体的に書かれている。

イギリスでは、Ｅ－ＣＡＴ（every child a talker）絵本を機会に会話ができるような取組みがあり、ピクニックに行く絵本であれば、食器や、本を読み聞かせた後に子どもとどのような会話をするかのレクチャーもセットになっている。ものプラス委員の皆さんが持っているような配慮がまとまっている。

教育保育施設も様々であり、研修を受けている人ばかりではない。研修参加者は72名と報告されているが、私立だけでも１万人の保育士がいる。研修だけでは難しいので、まとめた教材も必要と思う。

○　本は抽象的なもので、それが絵になり、文字になって、イメージがわく。子どもたちがイメージを持つには３歳４歳のきっかけが大事である。昨年のＥＳＲでは３歳児の時点で家庭環境によって語彙数が倍ほど違うことの結果がでている。（子どもの読書活動を進めるにあたって）家庭での様々な困難に対して早く（対応）できればいいと思う。

○　中学生の職業体験で読み聞かせをしてもらっているが、親になった時にこのように（自分の子供に対して）して欲しいと思う。職業体験で必ず（読み聞かせを）してもらってもいいのではないか。

＜中高生への働きかけ＞

○　中高生に対する好事例の収集はどのようにしているのか？○○市ではボランティア団体が隣の中学に中学生ボランティア育成をしている。本の読み方、持ち方の練習、幼稚園児との接し方、読み聞かせの見学、図書館での読みきかせの実践をしている。中高生の図書館への来館は減っているが、中学生に本を読んでもらう楽しさを知ってもらう、遊びのなかで風習付けができればと思う。

＜配慮が必要な子どもへの読書活動支援＞

○　点字図書、録音図書が少ない。ＬＬブックは発行点数が少なく、生活指導の内容のものが多く、楽しむ視点のものが不足している。ＬＬブック（として読んでもらえる）幅を広げる工夫はしているのか。

○　病院、児童養護施設への団体貸出しは、（子どもがいる場所が）病気のタイプ別になってしまうなど年齢別のおはなしができない。また、寝たきりの子どもさんもいる。貸出しセットをつくるときにどのような配慮をしているのか。

＜絵本から文字の本への移行、文字の本の読み聞かせ＞

○　絵本から本への移行に躓く子供も多い。絵本の取組みが多いが、文字が多い本へ移行するときの取組みが欲しい。

○　絵本から文字の本へ移行に関して、「絵本は読んであげる、読み物は自分で読みなさい。」ではなく、家でぜひ読んで欲しい。子どもは自分の中のイメージを膨らませることができるので、字が読めるようになってもできるだけ本を読んであげてくださいと啓発して欲しい。

一日で読み切れない本を家庭で読んだこともあったが、聞く方も読む方も、だんだん長さに耐えられるようになってくる。子どもは自分で読むようになってくる。

○　困難な家庭で読み聞かせがあまり行われていない場合もあれば、教育熱心な家庭で自分で読むことをステータスとして読み聞かせをしない場合もある。なかなか、読んであげることの大切さをわかっていただくことは難しい。

○　１度読んで本当に本を好きになった子がもう一度同じ本を読むこともあるが、教育熱心な方は次の本を読みなさいと言う傾向がある。２年生、３年生は（自分で）読みにくい子もいるので最初だけ読んであげるなどをしていた。３年生くらいになると２極化してしまうので、読んでもらえていない子達をどうすればいいかを考えていく必要がある。

○　学校の担任の先生も（子どもに）読んであげて欲しい。

＜学校の役割＞

○　10分間読書運動では、勝手に生徒に好きなものを読ませるのではなく、担任が自分の好きな本を読んであげるということにしていただくと随分違ってくるのではないかという気がする。

○　（自分の経験では、）学校図書館に司書が配置される前であったのだが、先生から本を紹介してもらっていた。紹介してくれる大人は何年生になって欲しいと思う。

○　府立高校は学校司書が配置されていない。学校が必要に応じて図書館の担当に先生を工面して取り組んでいる。学校によっては、先生が図書委員と一緒に企画をたてる、生徒にある程度選書をする権利を与える、毎月本読んだ本の記録にコメントを書くことをよびかける等、読書を習慣づける取組みをしている。一方で、学校図書館で本の情報を得られないため、論文を書くための資料をどこで調べればよいかわからず、教科担任の先生が持っている本を紹介してもらったような例もあると聞く。府立高校にもぜひ学校司書の配置をしていただけるようお願いしたい。

情報リテラシーや英語教育が小学校から言われているが、学校図書館なくてはありえない、英語も豊かな日本あって栄華なのでぜひお願いしたい。

＜OSAKA PAGE ONE＞

○　（キャンペーンの展開について）根回しが十分にできていない感じがする。（組合としては、）出版社、教育庁で会談を企画し、機関誌を通じて浸透できればと思う。また、読書ノートについてある市では地域団体の協力により、全員に配られると聞いている。本の帯コンクールは、表彰式、新聞紙面への掲載があり、子ども達の励みになっている。（キャンペーンの周知のための）店舗用のポスターをつくって、図書館から街に出る宣伝をしていただきたい。１年くらいかけてやらないと盛り上がってこないので（組合としても）一緒にやっていきたい。

【平成29年度の取組み方針】

＜読み聞かせボランティア育成研修＞

○　読み聞かせボランティアは、どんな年齢であれ、絵本が好きで、絵本について、しっかり勉強して、子ども達に伝えたいとの思いがないと難しいと思うので、研修のありようをしっかり考えていただきたい。子どもが絵本を楽しめる環境づくりのためのボランティア活動であることを忘れないような研修にしていただきたい。

＜中高生向けの読書推進策＞

○　中高生向けのプログラムはビブリオバトルが中心となっているが、読書推進の方策とはいえない部分があり、それがメインであるのは気になる。友だち同士は影響が強いので、ビブリオバトルをしなくても本の交換等はしていると思うが、（本を紹介する人が）友だちだけでは読書の幅広がっていかない。ブックトークなど、専門的な力のある人を借りた、専門的な視点からの紹介の取組みが必要。

＜オーサービジット＞

○　作家を呼ぶだけでなく、きちんと読書活動につながるような事業にしていただきたい。

＜学校での取組み＞

○　学校図書館が全国的に一番注目すべきところとなっている。大阪府としてどう考えて、どうサポートしていくのか、市町村への関わりも含めてしっかり支援していただけたらと思う。

○　高校については、数値的には指標⑥⑦は順調に上昇し、⑦はすでに目標値を超えている。中央図書館の利用の制限の緩和や特別貸出しの充実を図るなど地道な活動のおかげと思う。フォーラムの開催時期については、平日は教員が出席するのは厳しい。

＜学校司書の配置＞

○　学校現場は、英語、学力向上、読書それぞれ大事である。当市は司書がいなかったが、トップの英断で週に1回来てもらえるようになり、現場が変わった。ずばり人だと思う。他の自治体でもトップの方針によって温度差があるので、こうした場で現場の思いを積み上げて、皆さんに頑張っていただきたい。

○　学校図書予算については1993年から地方交付税措置され、第４次（学校図書館図書整備等５か年計画の）最終年度では、図書予算200億、学校司書150億と２校に１校くらいの配置割合の予算である。来年に向けても文部科学省が、総務省に対して増額要請を考えているので、この予算をぜひ活用して欲しい。読書活動推進運動には、本とそれを紹介する人がいないといけない、その辺の施策を講じていただければありがたい。

○　高校では、2020年に高大接続システムが大きく変わっていく中、司書教諭で対応する方向になっているがそれすら進んでいない。学校によって違いがあるとは思うが、実習教員、技術員、教員が減っていく中で、（人員要求の）学校からのリクエストの上位に学校司書は来ないのではないかと思う。

○　文科省の学校司書の養成講座のモデルカリキュラムが示されているが、大学の側からすると、専任ではなく、安定しない仕事なので、（学生向けの）カリキュラムを大学において欲しいといえない状況。大学としては、おもしろい仕事かもしれないけれど安定していない1年雇用かもしれない仕事に学生をだしますとは言えないのが実情。雇用と人材を育てる関係は非常に深い。（学校司書の雇用形態について）学校現場にすれば毎日（勤務）が望ましいが、教育委員会単位でもいいので専任で採ってもらえるような雇用でないと専門的な力を持っている人材はだせないのではないかと気になっている。

【まとめ】

○　今日いただいた意見を来年の方向性ということで活かしていただければと思う。

○　学校司書の件はどこまでできるかはあると思うが教育庁として力を入れていただきたい。

○　昨年４つの大きな柱を立てているが、狭間の部分、本と出合った後、本と親しむところ、例えば、絵本は好きになったが、実際に本に親しむための文字に対する壁、そのリテラシーを超えないと実際読書ができない。

文字の本を読み聞かせる、中学生が子どもに読み聞かせをして自らのリテラシーを高めるなど部分も含め、狭間をどうするか。昨年の取組みもひとつひとつはよくしていると思うが、文字に親しむ段階になると読書率が落ちているのは、これが中高生の読書率が下がっている問題かもしれない。どのようにアプローチをするのか事務局で考えていただきたい。

○　ビブリオバトルについては、大阪府の一つの方策として、すでに読書に親しんでいる層には近づいても、それ以前に脱落している層には工夫が必要。来年度事業に向けて検討していただければ。

○　すぐに来年度事業に反映できるもの、中長期的に考えていくもの等を整理していただき次回に報告いただきたい。